

2025年度創立記念日記念式典について

2025年12月10日

公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所は、2025年度創立記念日記念式典を下記の通り開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 開 催 日 時： 2025年12月10日(水) 9時30分から12時00分
2. 場 所： 国立研究所 講堂
3. 列 席 者： 役職員（約450名）
4. 式 次 第：

第1部 式辞及び表彰等

- (1) 会長式辞
- (2) 理事長式辞
- (3) 表彰等
 - 所内表彰
 - ・ 研究開発成果賞・業務成果賞
 - ・ 研究開発成果褒賞・業務成果褒賞
 - ・ 研究開発奨励賞
 - 永年勤続15年表彰（15名）
 - 資格等取得者への奨励金等贈呈
 - （博士号8名、技術士5名、一級建築士1名）

第2部 記念講演

「極域から地球環境変動を探る」

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所 所長
野木 義史 様

News Release



【向殿政男会長式辞 要約】

社会をとりまく環境や人々の価値観が急速に変容している。今までのAIブームとは異なり、今のAI技術の発展は、いよいよ社会を劇的に変化させ、それを加速させるものになっている。このような社会環境の変化の中で、研究開発や課題解決の手法も大きく変わりつつあり、科学技術の進む道を見通すことが難しくなっている。

これからは「ウェルビーイング」といった幸せや安心感を重視する価値観が求められる社会になる。皆さんも明るくポジティブに健康に、物事に取り組んでほしい。そして、このような技術が出来れば、鉄道で働く方々の安全が確保され、鉄道を利用するお客様にも楽しく列車に乗っていただけるのではないかという気持ちで研究にチャレンジしてほしい。鉄道総研が安全・ポジティブな環境を築き、社会に貢献し、一人ひとりがやりがいを持って挑戦できるよう、力を合わせて頑張っていこう。



会長式辞

【渡辺郁夫理事長式辞 要約】

鉄道を取り巻く環境は急速に変化し、人口減少、頻発する自然災害への対応など課題は深刻化している。その中で、私たちは基本計画「RESEARCH 2030」をスタートさせた。改めてその目標や意味するところを、部門や研究室として、また個人としてどう取り組んでいくか、もう一度見つめなおして業務を充実させ加速させていってほしい。取り巻く環境が大きく変化するなか、鉄道事業者も長年続けてきた仕事の仕組みややり方を大きく変えようとしている。我々も長年培ってきた鉄道のコア技術をベースに、物事の本質を見極め、さまざまな技術分野の融合を図り、鉄道の新しい価値を創造していきたいと思う。研究開発成果を社会実装に結びつけることで、技術的イニシアチブをしっかりと確保しつつ、日本の鉄道の変革を支えていこう。



理事長式辞

この11月には人事賃金制度を抜本的に見直した。一人ひとりが自己実現を実感できるウェルビーイングな職場作りに引き続き取り組むので、皆さんには意欲的に幅広いフィールドで活躍していただきたい。皆さんのが前向きに「RESEARCH 2030」そしてビジョンの達成に向けて、日本の鉄道の持続的発展を支えていくことを期待する。

【2025年度所内表彰】

表彰件名と受賞者は別紙に記載。

【2025年度所内表彰 表彰件名および受賞者】

□研究開発成果賞

「疲労健全度を考慮したレール交換周期の延伸」

細田 充、水谷 淳、相澤 宏行、
田中 博文

「車両床下外観自動検査システム」

小島 崇、宮原 宏平、風戸 昭人、
川越 夏樹



表彰式

□業務成果賞

「水素燃料鉄道車両の安全性検証と法令改正への貢献」

水素燃料鉄道車両の安全性検討グループ 12名

門脇 悟志、和田 一範、小川 賢一、福田 傑、高野 純一、米山 崇、
八島 悠太、小暮 崇史、當麻 彦樹、宮崎 佳樹、石原 篤、金子 真直人

「資金運用の環境整備及び実行」

小林 明寛、野村 真梨子、住吉 真由子

□研究開発成果褒賞

「自律型列車運行制御システム」

太田 佑貴、会田 直矢、影山 榧、熊澤 一将

「付随車回生が可能な非接触ディスクブレーキの基礎設計法」

浮田 啓悟、坂本 泰明、近藤 稔

「車上計測された軌道変位に基づく支承あたり抽出法」

服部 紘司、松岡 弘大、田中 博文、中田 悠貴

「パンタグラフの摩擦振動低減手法」

小林 樹幸、天野 佑基、山下 義隆

「営業線における超電導き電システムの実証」

超電導き電開発グループ 6名

福本 祐介、石原 篤、赤坂 友幸、恩地 太紀、小林 祐介、富田 優

□業務成果褒賞

「列車の減速性能低下事象の調査」

列車の減速性能低下事象の調査グループ 19名

中澤 伸一、半田 和行、中橋 順一、飯田 忠史、秋山 裕喜、山田 剛巳、
加藤 祐貴、小笠原 柚、木崎 裕太、松原 孝聰、奥村 茂里、坪川 洋友、
斎藤 大樹、青木 啓文、深貝 晋也、宮平 裕生、岸谷 宣成、槇田 耕伸、
錦織 大幸

「光切断法を用いた剛体電車線摩耗計測装置の実装」

薄 広歩、松村 周

「国立研究所の電話設備更新と IP 電話化」

山口 大介、鈴木 実、三木 真幸

「青函トンネルの補強工の設計支援とマニュアル作成」

嶋本 敬介、野城 一栄、大原 勇、浦越 拓野

「新幹線沿線における騒音影響解析」

新幹線沿線における騒音影響解析グループ 6名

宇田 東樹、末木 健之、小方 幸恵、阿久津 真理子、八谷 洋輔、橋場 一富

□研究開発奨励賞

「二重偏波レーダーを用いた新雪密度の推定手法」

高見 和弥

「接触状態推定を用いた走行安全性評価手法の開発」

國行 翔哉

「車輪曲げひずみを用いた車輪／レール接触位置の連続測定手法」

野口 芳直

「サイト位相特性を活用したより精緻な地点依存の設計地震動算定に関する研究開発」

杉山 佑樹